



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2011年9月1日

9月号 第116号

奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * リレー随筆「お元気ですか」
- * ビオトープと里山で・・・親子イベント
- * ならやまくレポート・自然観察>・スズメバチに素速い対応！
- * 自然俳句
- * 僕は糞ころがし！「昆虫講座」⑩
- * 癒しの散歩道・「自然をいただきま〜す」
- * 「里山の盆」・地域情報
- * 9・10月の行事案内・「龍王山」「額井岳山麓」「木曾路一泊研修会」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

	1
	2
3	5
	6
	7
	8
	9
10	12
	13



ルー随筆 お元気ですか！

新たな山歩きの楽しみを

噛み締めながら 四宮 憲一郎

昨年春に入会し、山の手入れを中心に活動に参加しています。フィールドが気に入ったことと、会の雰囲気が良いことで入会しました。山歩きが趣味で、森の中で時を過ごすことも魅力でした。この紙面では初めての登場ですので、少し自己紹介も交えながら話を進めます。

山歩き歴、一応40年。若い頃はよく歩き回った北アルプス・南アルプスでしたが、最近はずきり足が遠のいていました。この夏、約10年ぶりに北アルプスに行くことになりました。案外弱かった高気圧と大型台風のため天候は安定せず、スッキリしない中にも展望もありという山歩きとなりました。

雨上がりの薄曇りの中、中房温泉を出発。急坂に取り付き、ゆっくり少し長めに歩き、堅実に第一・第二ベンチと高度を上げていきました。合戦小屋手前で、北アルプス初体験の一人にアクシデント、足がつってしまいました。天候が妖しいため、植物観察を封印して登りを優先したことで、しわ寄せが出たのでしょうか。合戦小屋からは植物観察を解禁して、スローペースでの、休憩たっぷりの山歩きに。10時半ごろ燕山荘に到着、休憩と昼食を取り、12時ごろ大天井岳に向かって再出発。途中天候が良くなり、槍ヶ岳から西鎌尾根、三俣蓮華岳、鷲羽岳、野口五郎岳の山並みがくっきり見え出しました。そのため、さらにペースダウン。大天井岳直下の大天荘に着いたのは4時半位だったでしょうか。到着と同時に雨。幸運に感謝すると共に、明日以降の常念岳、蝶ヶ岳に想いをめぐらせました。

このコース、今までに何回歩いたのでしょうか。こんなに沢山の高山植物があったのかと、驚き

の連続でした。直接は植物観察好きの仲間によるものですが、若い頃とは少し違う山歩きの楽しみを噛み締めながら歩いた今回の山旅でした。



「メチャ・ハッピー」

桜木 晴代

家の周りの田や畑や雑木林で、花や野草摘み、イナゴや蝉、トンボとりに暗くなるまで興じた子供時代。隣の知恵袋のお年寄りにイナゴの甘露煮などを教わりました。

また男の子とはメンコや釘差し、ビー玉遊び。女の子とは着せ替え人形で遊び、自然大好き、手作り大好きな男の子のような女の子に育ちました。

そんな私が、自然大学を知り、退職して即入学。期待をはるかに超える充実の1年間、良き仲間を得ることもできました。

さらに「奈良・人と自然の会」との出会いが。会の理念、活動内容、企画、推進力、人の和等に感服。次世代のために、無私無欲で汗を流す同世代の人たちの姿に“スゴイ”と感動。無理をせず自分のできることをすればいいという言葉に安心して参加でき、毎回ワクワク。何といっても、会員一人ひとりが味わい深く「皆いい人」。会に出会えて“メチャ・ハッピー！”



イベント「ビオトープと里山の生きもの」

7月30日、奈良県山と森林の月間イベントとして「ビオトープと里山の生きもの」がならやまベースキャンプで開催されました。10家族（大人10名、子供16名）の参加のもとに、昆虫観察と採集、工作、ザリガニ取りを我がならやまスタッフとともに楽しみ、昼には冷たい飲み物とソーメンのサービスを味わってもらいました。子供たちへのお土産としてカブトムシ、お母さん方達へはならやま特産有機じゃがいも、みなさん大喜びでした。残念なことにカブトムシの数が少なかったの

で、全員にゆきわたらずじゃんけん勝負となりました。さらに、昼食時には突然の大雨というサプライズまで



つきましたが、午後は陽射しがもどり、無事予定通りイベントを終了することができました。

メインの昆虫観察と採集は高学年と低学年の2班に分かれて、ビオトープ池～ベースキャンプ地～自転車道の峠までのコースで虫を



求めて歩きました。

池の周りでは、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、イトトンボ、チョウトンボなどが見られました。チョウトンボに関しては、図鑑では見たことがあったが、実物を見たのは初めてだと言われる方が数家族いました。また、クワイの湿地ではクロアゲハ、モンキアゲハが吸水に来ているのが目

の前で見られましたが、残念ながら網はそこまで届きません。

落とし穴トラップでは、オサムシ、シデムシ、エンマコガネなどが落ち込んでいましたが、チョウ・トンボに気をとられがちな子供達にはあまり興味を持ってもらえませんでした。

ヤブカラシの葉を食べていたイモムシが見つかったので、子供たちを集めて手を触れてもらいました。最



初は尻込みをしていた子供たちも一人が触るとつぎつぎに触り、お餅のような感触がすると感想を述べていました。

子供たちのお目当てのカブトムシ、クワガタムシはなかなか見つかりませんでした。

樹液の出ているクヌギで各1頭見付き大喜びでした。草むらではショウリョウバッタが豊作でいくらかでも捕り放題でした。



ザリガニ取りは、するめの餌による釣と網による掬い取りをしました。釣りの方は小さな子供たちにとってまどろかしかったようで、主として網ですくっていました。

ザリガニはかなりいたのですが、網において池の中央部に逃げ去ったように思うようにはとれませんでした。しかし、エビやドジョウをたくさん取った子もおりました。



紙トンボ作りの工作はみんな熱中し、一生懸命作っており、接着がまだ十分に乾かないうちから試験飛行させている子もおりました。

大勢のスタッフの協力により、イベントは好評に終えることができました。

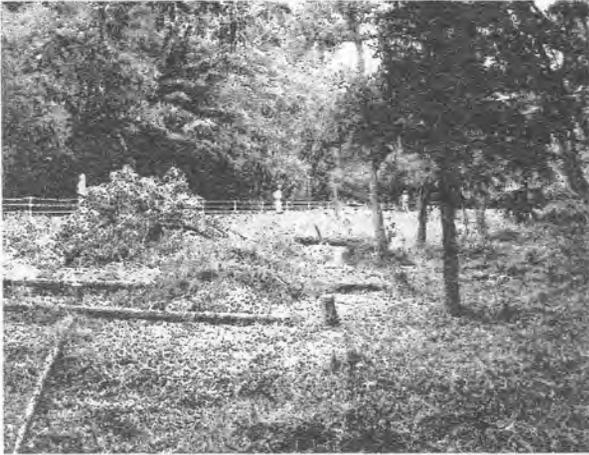
(文責：木村 裕)

ならやまプロジェクト・レポート 23年8月

7月28日(木) 曇り 参加者37名

里山グループは、彩りの森植樹計画に基づき、3号地の障害樹木を伐採。スギは4m長に切りそろえ樹皮を剥いて、薪小屋の用材として確保。

農園グループは田圃の土用干し、蕎麦畑の耕耘・畦作り。景観グループは花壇整備とC地区の草刈りを実施した。



7月30日(土) 曇り 参加者24+26名

公開イベント「ならやまの昆虫観察会」を実施。児童16名、保護者10名の参加があり、ならやまの自然を親子で楽しんでもらった。



8月4日(木) 晴れ 参加者39+1名

午前中は、C地区臨時駐車場用地の竹材を全員で搬出した後、それぞれ3号地の障害樹木の伐採、草取り、蕎麦畑の畝作り、花壇整備をおこなった。

午後からは、佐保台ふれあい会館において、現在進めている ①ならやま里山林再生計画 ②佐保自然の森植樹計画 ③ならやま彩りの森植樹計画について、それぞれの推進責任者から説明があり、活発な質疑応答がおこなわれた。



8月11日(木) 晴れ 参加者30名

彩りの森3号地の樹木伐採に並行して、植樹位置決め杭打ちが始まる。ナラ枯れ調査の粘着テープ回収。梅林、菜の花畑跡地の草刈り、肥料播き。ナス、ピーマン、南瓜の収穫をおこなった。

8月18日(木) 晴れ 参加者7+3名

絶滅危惧種のニホンバラタナゴのピオトープへの放流の申入れがあり、近畿大学農学部環境管理学科 北川忠生博士他2名が来訪。環境、水質を調査した結果放流可能と判断された。放流実現に向けて、阿部会長、塩本、木村、菊川各氏が対応していくことになった。

8月20日(土) 晴れ 参加者26+2名

連日の猛暑のためか、実習生は2名と低調であった。彩りの森3号地の樹木伐採、植樹位置決め杭打ち、ナラ枯れ調査のパトロール等順調に進捗している。

ナス、万願寺トウガラシ、トウガン等の収穫や蕎麦の種蒔きがおこなわれた。11月の「新蕎麦まつり」が楽しみ!
(藤田 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

山中笙子

8月11日 夏の暑さは、植物にとっても3K（強光、高温、乾燥）の厳しい環境でストレスになりますが、この暑さに負けない植物もいます。

スベリヒユやエノコログサは二酸化炭素を効率良く吸収する性質があり、葉の気孔を大きく開けずに水分の蒸散を節約できるそうです。

ヨウシュヤマゴボウは、名のとおり牛蒡状の太い根（有毒）が深く張って水分を吸収できるのでしょう。目立つ赤紫色の太い茎、ぶどうの房のように垂れ下がる黒紫色の実が鳥たちの目を引くことでしょう。

草花*イヌタデ、ヨウシュヤマゴボウ、スベリヒユ、
ヒデリコ、コゴメガヤツリ、ベニバナボロギク、
タカサブロウ、ヤブガラシ、ヘクソカズラ、
キツネノマゴ

花壇*メマツヨイグサ、ガガイモ、オニユリ、コスモス、
ミズヒキ、ヤブラン

木の花*コシアブラ（蕾）
サワフタギ、カマツカ、ヒサカキ（実）



ならやまの鳥だより

小田 久美子

8月8日（月） 私の体調不良のため菊川さんお一人で廻って下さいました。鳥は8種36羽でした。

山の中ではクマゼミ・アブラゼミ
ヒグラシ・ニイニイゼミが
大合唱だったようです。

#「とりシリーズ」今月は休ませて頂きます。
なお8月号「とりシリーズ」の冒頭の滋賀県
一乗谷は福井県の間違いです。訂正させて頂
きます。



◇◇◇ ベースキャンプ近くにスズメバチの巣 ◇◇◇

～ 県の素早い対応で危険除去～

ベースキャンプのごく近くでスズメバチの巣が見つかりました。発見は8月5日のことです。自転車道に沿って少し東へ行くと竹藪を背にして数本のクヌギの木があります。その中の自転車道に最も接する木の根元に10cm位の縦長の穴があって、たくさんのスズメバチが出入りしていました。

観察の結果、モンスズメバチの巣であることがわかりました。このスズメバチは小型ですが攻撃性の強いことが知られています。数度観察に出向きましたが、その都度さほど巣に近づいていないのにカメラを構えたり、双眼鏡で覗いたりしますと門番のようなハチが飛び出してきてまつわりつき、威嚇ポーズをとったりするありさまでした。

巣穴の位置は自転車道のすぐ脇のところですから、自転車道を利用するサイクリスト、歩行者、あるいは夏休み中ですから昆虫採集の子供などに被害が及ぶおそれがありましたので、8月10日、会長から県庁

風致景観課の森本主査に対応方の要請をしていただきました。県では早速翌日(11日)の朝、坂野古都管理係長と森本主査が現場を見に来てくださいました。その結果、対策として強力殺虫剤を噴射してハチを弱らせ、その後、巣の出入り口の穴に土囊を積んで塞ぐという方法で処理されることになりました。県庁の両氏は一旦帰庁され、資材を調べて再度昼前に現場に来てくださいました。当会からも応援が出て、間もなく所定の対策が完了しました。そのうえ「スズメバチの巣 注意」という立て札も立てていただきました。

要請の翌日午前中に処置が完了というのはまことに素早い対応で、かつて千葉県松戸市の「すぐやる課」というセクションが有名でしたが、これに劣らない行動です。

なお、処置の際に巣の外に出ていたハチが残っていますので、その後数度、当会の手で強力殺虫剤を用いて残党退治を行いました。(文責：菊川年明)



(処置前)



(処置後)

自然俳句欄

しべ
薬睦む摘む手追われし茄子の紺

鈴木 未一

茄子畑。一番獲りは上々の首尾。摘み手不足に悩むほど。
夏場に向けて如何なる仕儀になりますかな。

青田濃き稔りのときを思ひたり

鈴木 未一

子供達の植田の生育が順調。青田の姿に夢を追う

キタアカリてふ植えし苗木の実りかな

桜木 晴代

キタアカリは馬鈴薯の一種。収穫に思いが募る。
種の名前に、北の災禍がオーバーラップする。

う
茹だる日に友と連れ連れ草を引く

桜木 晴代

草取りは夏の季語。炎天下の作業は大変。相棒が居てこそ捗る。

きんぴらの代名詞かな新牛蒡
たとふれば美脚の主ぞ若牛蒡

川井 秀夫

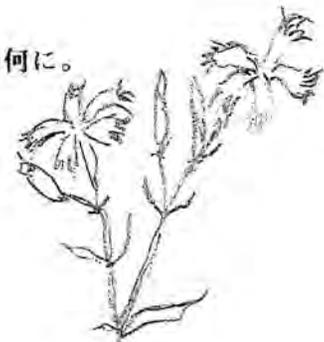
川井 秀夫

牛蒡の収穫期は秋。早採りの牛蒡の味に舌鼓。形も大根に比べ美脚
とは幸せ。きんぴらは晩酌の良き友。牛蒡ならではの珍味だ。

樹皮剥けば丸ごと命杉落葉

川井 秀夫

里山体験。女性の手際もなかなかのもの。リユースや如何に。
針葉樹は若葉が育つと夏でも落葉する。夏の季語。



僕は糞ころがし

—やさしい昆虫講座（第11話）—

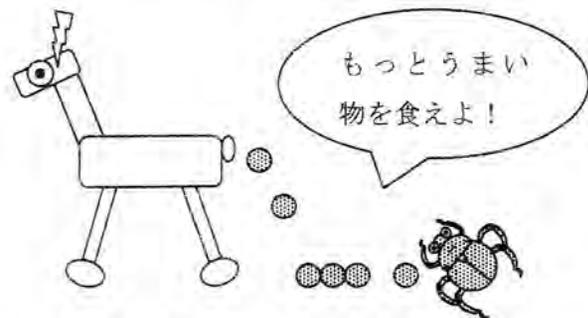
木村 裕

糞ころがしと言うと、たぶん会員のみなさんよりもお孫さんの方がよく知っていることでしょう。子供用の絵本などに牛の糞をボール状に固めて、自分の体よりも大きな糞を転がしているタマオシコガネの絵がよく載っています。また、西洋史に詳しい方ならツタンカーメン王の墓から出た胸飾りにタマオシコガネが彫られているのをご存知でしょう。食べ物が異様ではありますがカブトムシやカナブンと同じようにコガネムシ類の仲間です。

このように牛や鹿、人間などの糞を常食にしている虫は、日本ではダイコクコガネ、センチコガネ、エンマコガネ、マグソコガネなどと呼ばれていますが、糞玉をこしらえて運んでゆく器用な種類はあまりおりません。しかし、彼らなりにいろいろ工夫して動物の糞を処分してくれ、私たちに大いに貢献してくれています。

奈良在住の私たちにとってもっとも身近な虫は、オオセンチコガネ（青色のため、ルリ

の糞で山盛りになっていることでしょう。奈良公園では、鹿が伸びだした草の葉をかじる→糞を落とす→マグソコガネなどが食べる→糞が土に還る→草が肥料量として利用する、

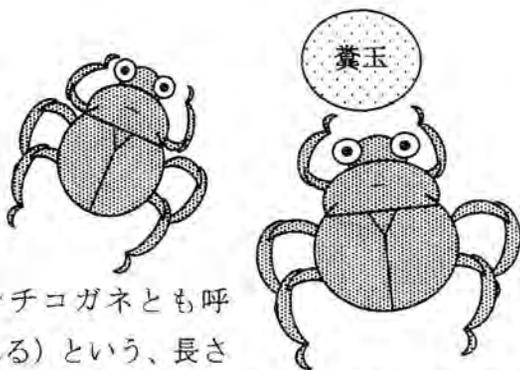


という一連の流れが出来上がっています。

これらの甲虫は、鹿糞を見つけると糞の下に潜り込んで腹いっぱい食べ、ついで糞の直下や近くの地面に穴を掘って糞を地中に運び込んで卵を産みこみます。ふ化した幼虫は親が準備してくれた栄養豊かな糞を食べて成長します。

動物の糞を常食にしている甲虫でもっとも大きいのは、インド～マレー半島にいるオウサマナンバンダイコクコガネと言う虫で、体長は6cm（日本のカブトムシは4～5cm）もあります。体相応に大食いで、ゾウの糞を常食にしています。体は黒い堅い甲羅で覆われ、立派な角もあり、王様の貫禄十分です。また、南米では赤や緑色に光り輝く宝石のような虫もいます。これが糞の中から生まれてきたとは想像もできません。

外国産に比べると見劣りはしますが、日本にも大小、いろいろな形で色とりどりのお掃除やさんがあり、種類によってたべる糞にも好みがありますが、人の糞、犬の糞、鹿の糞、タヌキの糞などそれぞれ折り合いをつけ、仲良く暮らしています。



センチコガネとも呼ばれる) という、長さ2cm前後で青色に光る美しい甲虫です。奈良公園にはたくさん生息しており、鹿の糞を片付けてくれています。また、気の毒にもマグソコガネなどと呼ばれているコガネムシもたくさんいて、お掃除に一役かっています。もしこれらの虫がいなかったら奈良の芝生は鹿



煌めく湖上の楽園

谷川 雅邦

近江の里から見渡す真夏のきらきら光る湖上に現れた季節の楽園よ
刻む時も穏やかに一艘の小舟が遥か遠くにゆらりゆらりと浮かぶ
昔を今に伝える菅笠の小さな船人のシルエットが眩しく銀色に輝き
ほのぼのと揺れては夏の旅情がそよ風に吹かれ旅人を優しく誘う
やがて空が茜色に染まり夕闇が迫る頃あなたが出会った夜空には
見え隠れしてウインクする星の光が瞬き天空に舞台の幕を開ける
明日の夢を彩る祝宴の花火が幾重にも生まれては世代を越えてゆく
さあみんなで新しい未来へと羽ばたこうよ大きな光の輪になって
明るく照らす希望の灯りと生きる勇気がどこまでも続きますように
澁みない織りなす光のページェントは見る人の心を一つにする



自然をちょっぴり いただきま〜す

西谷 範子

夏から秋にかけて、ならやま周辺にもあちこちに見られる
ベニバナボロギク。もともとアフリカ原産の帰化植物であるが、
第2次大戦後に入ってきてあっという間に広がった。
キク科ではあるが、小さなレンガ色の筒状花を下向きに垂れて
咲く。種が熟すと冠毛が花を覆うごとくにわき出でて、風に
乗って飛ぶ。この様子がぼろをまとっているように見えるので
ボロギクと言われる所以である。



葉は花に似ず大きく10~20cmの長楕円形で、下の方は羽状
になる。この葉が柔らかいので、上の方の茎とともに摘んでさつと茹でる。
注意は茹で過ぎないこと。水にとってすぐ上げ、おひたし、和えもの、サラダに混ぜる
など何でもいける。ちょっと春菊に似た香りと、シャキシャキ感が身上。
鰹節と醤油かポン酢であえる、ベーコンなどいためるなど、そんなに癖がないので、
初めての人にはスーパーで売っている野菜と言ってもらえる。
花も食べられるが、口に触ると言う人には、つぼみを葉などと一緒に天ぷらにするとよい。
綿毛が盛り上がる頃になると、そろそろ硬くなってくるので、若葉や芽先を摘もう。
天ぷらなら下の方の葉でもOK。

よく似たものにダンドボロギクがある。こちらも食べられるが、ベニバナボロギクの方
がおいしい。

薬効は利尿、乳腺炎、腸炎に効くとの事。



西の柿：東の柿さんに梅さん、毎日暑いね。
 東の柿：このところ雨が降らんのでたまらんわ。
 梅：本当にね、日焼けが気になるわ。
 西の柿：人間界ではお盆で随分静かだけど、この里山には花あり、鳥さんが囀り、竹林さんが涼しそうに揺れ、夜になると小沼に月が浮かんでなかなかの風情だね。

梅：そうよね。でもね、お盆がくると考えてしまうの。私は花と実が喜ばれ、柿さんも鈴生りの実が秋の風物詩として喜ばれるけど。

東の柿：分かった梅さん。これまで多くの樹木が伐採され、その彼等の後生を心配してるんだよね。

西の柿：そりゃあ安心していいんじゃないかな。

みんな里山がどんどん美しくなることを喜んでいてくれるよ。僕は時々夢を見るんだよ。ここに能舞台があつて、月が出る頃に薪能が催されるんだ。

ピーと笛、イヨオー・カーン・ボンと大小の鼓、橋掛からワキ（樵）が、やゝ間があつてシテ（樹木の霊）がしずしずと、謡と舞が幽玄の世界へ・・・なあんてね。

東の柿：嬉しい夢を見るんだ

ね。暑さ寒さにも頑張つて生き生き里山への意欲と自然界への畏敬が、翁達から伝わってくるよ。

梅：私も同感だわ。一面の菜の花、蕎麦の花、名高い南紅梅さん、黄色い稲穂、芋・ネギなど野菜が整然と、計画されている桜並木等々四季を色どり、味も香りも楽しめる楽園よね。



里山の盆

竹本 雅昭

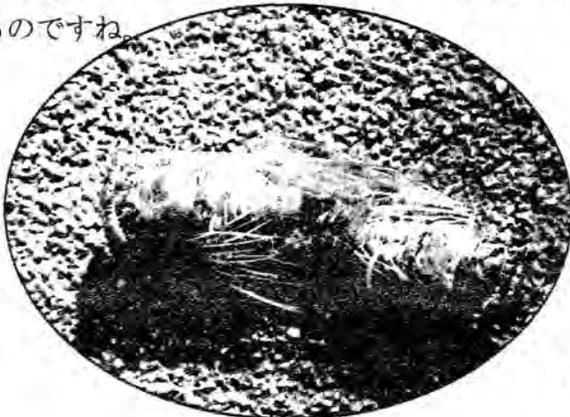
ちいきじょうほう

★平城旧跡 8月1日ツバメの罫入りを見に行きました。今日は7時になってもまだ少ししかツバメが来ません。例年なら、空を舞ってるというのに・・・7時5分現れました。25分には静かになりました。罫に入ったり出たりのショーは見られませんでした。

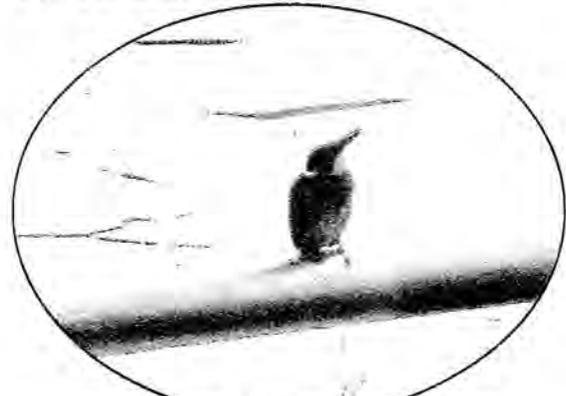
・11日ご近所さんと9人でまた出かけました。7時少し前に着くと空一面ツバメです。でも、曇っていてあまりよく見えませんでした。あつという間に終わってしまいました。

【龍田公園にて】

★クマゼミの交尾：羽化はよく見ますが、交尾は初めてでした。1週間の命で次の生命を繋いでいるのですね。



ホシゴイ：(ゴイサギの幼鳥) 周辺と保護色になっていて毎回探すのに一苦労。



久しぶり カワセミ サラサクします。

・19日エノキの木でヒヨドリが盛んにつついていました。近寄って見ると、エノキのみが赤く色づいていました。小さな秋を見つけました。

(勝田)

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト9月・10月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時

9月 1日（木） 活動日
9月 8日（木） 活動日
9月15日（木） 臨時山の日
9月17日（土） 活動日（教育実習生受入）
9月22日（木） 活動日
9月29日（木） 臨時活動日

10月 6日（木） 活動日
10月 8日（土） **会員** 芋ほり大会
10月13日（木） 臨時山の日
10月15日（土） **公開** 芋ほり大会（教育実習生受入）
10月20日（木） 活動日
10月27日（木） 活動日
10月31日（月） 雨天予備日

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8：23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8：32発 JR奈良行（平日）

8：30発 JR奈良行（土曜）

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手、（作業用具は現地で用意）、暑さ対策にご留意ください。

*環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

活動内容

- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
- ・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り
- ・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」
- ・広域里山パトロール（保全、ナラ枯れ点検、生物調査など）

★ならやま・バードウォッチング

☆日 時： 9月12日(月) 9:00 集合 *時間が通常に戻ります

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

★担当者：小田 菊川

9月例会 「大和の展望台・龍王山へ登る」

城郭跡が残り大和平野を一望できる「龍王山」(585m)へ登ります。長岳寺山門横手から頂上(南城跡)を目指します。頂上は360度大和平野大パノラマです。下りは、長岳寺奥の院、龍王山古墳群を経て、崇神天皇陵横へ出ます。道は樹林の中の山道の上り下りが続きます。参加者のペースに合わせてゆっくり行きます。ハイキングシューズでも行けませんが、軽登山靴がベターです。途中雨の場合、傘以外の雨具必携です。

日 時； 9月21日(水)

集 合； JR「柳本駅」前 AM9:00 解散；JR「柳本駅」前 PM3:00

(近鉄大和西大寺8:05—8:27近鉄天理 JR天理8:47—JR柳本8:53)

コース； 柳本駅—柳本バス停—天理市トレイルセンター—長岳寺山門横—不動明王石像—龍王山山頂—長岳寺奥の院—龍王山古墳群—崇神天皇陵—柳本駅

担 当； 塩本 勝也 寺田 孝

<9月度 オプション行事>

東海自然歩道 額井岳山麓を巡る

戒長寺から室生・大野寺へ

(ぬかいだけ)

今回は東海自然歩道は榛原・玉立橋から大和富士と呼ばれる額井岳の山麓を巡り、戒長寺では天然記念物指定の「お葉つきイチョウ」や「ホオノキ」の巨木を観察して室生湖へ向かいます。初秋の静けさを愛でながら室生湖畔から室生口の大野寺へ迎ると、弥勒菩薩の磨崖仏が静かに迎えてくれます。高低差は少なく、気楽にご参加ください。

日 時	： 9月27日(火) 午前9時集合
集 合	： 近鉄榛原駅 北口バス乗場 (針インター行バス 9時12分発)
	・ 大和西大寺(権原神宮前行急行)7:55…八木8:17着(乗換)
	・ 上本町[地上](青山町行急行)7:52…鶴橋7:55…八木8:34…榛原8:47着
コース	： 近鉄榛原駅(バス)玉立橋…十八神社…山部赤人墓…戒長寺… 室生湖赤人橋…室生ダム…大野寺…近鉄室生口大野駅
担 当	： 川井 秀夫 弓場 厚次

<10月の予定>

大淵池公園自然観察会のご案内

自然教室チーム

7月19日に予定していたならやまでの「インプリ入門研修」が台風のため中止になりましたので、今回は場所を変えて大淵池公園で自然観察会ならびにインプリの実習をすることになりました。奈良・人と自然の会の皆さんへの公開の観察会として、下記によりご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

- 1.日 時 : 10月4日(火) 10時~15時 (午前中のみ参加でも構いません。)
- 2.場 所 : 大淵池公園 西地区
- 3.集 合 : 大淵池公園駐車場(噴水の前) 10時
- 4.実施内容 : ①メンバー小田久美子さんによる植物案内(午前中)
②メンバー木村裕さんによる昆虫解説(午前中 ①と同時進行)
③自然教室チーム有志によるインプリ実習(午後に数名実施予定)
- 5.持 参 物 : 昼食、飲み物、筆記用具、雨具
- 6.実施判断 : 前日午後7時前NHKの天気予報で、降水確率(午前)が60%以上の場合は中止
- 7.申 込 み : 9月20日(火)までに倉田あて申込みをしてください。



- 8.その他 : ①大淵池公園へのバスの便

近鉄学園前駅北口の奈良交通バス乗場 5, 6, 7番から出るバスに乗り、大淵橋バス停で下車。(バス乗場は改札口を出た真ん前に位置し、多数の便がある。乗車時間は約5分、運賃210円です。)

- ②大淵池公園西地区の概要、車でのアクセスは、下記 HP を参照下さい。

<http://obuchiike.1slife.net/>

創立10周年記念行事

「木曾路一泊研修会」まだ余裕があります!

日頃のいそがしさを忘れ楽しいひと時を!!
ワクワク.....

木曾路一泊研修会は、まだ定員に余裕があります。樹齢300年を越えた木曾ヒノキの天然大樹が茂る「赤沢自然休養林」、白樺、カラマツ林の錦秋の「開田高原」を楽しみませんか。宿は、標高1026mにたたずみ、露天風呂からの「御嶽山」の展望が素晴らしい「木曾駒高原ホテル」です。普段活動に参加されていない会員の方大歓迎です。現在参加を申し込まれている方の4割近くは女性の方です。奮ってお申込み下さい。

- 1.日 時 10月17日(月)~18日(火) 雨天決行
- 2.行き先 木曾福島 (第一日「赤沢自然休養林」、第二日「開田高原」)
- 3.宿泊先 木曾駒高原ホテル (長野県木曾郡木曾町新開 0264-23-7221)
- 4.会 費 22,000円 (宿泊費一泊二食、バス料金、昼食を除く飲食費など)

*参加申込み先 寺田 孝

「ならやまフィールド」にも「参加申込書」を用意しています。

平成23年8月度幹事会報告

日 時：平成23年8月2日（火）17：15～18：50

場 所：中部公民館

出席者：幹事16名 顧問1名 計17名

- (1) 7月末会員数 133名
- (2) 「ならやま自転車道沿いの植樹による景観作り」について「ならやま彩の森プロジェクト」と呼称することになった。
- (3) 「佐保自然の森植樹祭」については全国育樹祭関連イベントとして、11月19日（土）地元自治会、近隣市民、一般希望者、近隣児童、会員を集め盛大に行うことになった。
- (4) 新春講演会については大阪産業大学教授前迫ゆり先生と大阪市立大学大学院講師名波哲先生に「森林の生態、シカと森の今（春日原始林のナギ・ナンキンハゼへの遷移）」（仮題）について講演していただく。日程は1月下旬の土日で調整する。
- (5) ナラ枯れ調査についてはコナラの全木調査が終わりコナラ管理台帳ができた。目下のところナラ枯れの被害は発生していない。また森林技術センターと協同で行うコナラの萌芽更新実験の対象地区が決定した。
- (6) ビオトープ池の1年にわたる生きもの調査の結果がまとまった。

表紙のペン画によせて

境 寛

以前から、描きたいと思う仏像に、新薬師寺の十二神将の伐折羅大将と、今回の中宮寺弥勒菩薩でした。この菩薩のアルカイクスマイルと言われるかすかな微笑みが出ているのでしょうか。中宮寺の本尊弥勒菩薩半跏像は飛鳥時代の作。寺伝では如意輪観音だが、これは平安時代以降の名称で、当初は弥勒菩薩像として造立されたものと言われている。材質はクスノキ材。現状は全身が黒ずんでいるが、足の裏などにわずかに残る痕跡から、当初は彩色され、装身具を付けていたらしい。

編集後記：*朝晩は少し涼しくなり、日中の暑さも峠を越しました。しかし、体の調子は今からが不安定になるようです。夏に頑張った皆さん、少し体を休めてみては如何でしょう。

*会報発送作業・編集会議日：10月号の作業は9月26日（月）午前9時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしくお願いいたします。

編集担当：勝田 均